

広島県立安芸南高等学校

実施日：令和5年1月10日（火）14：25～15：15

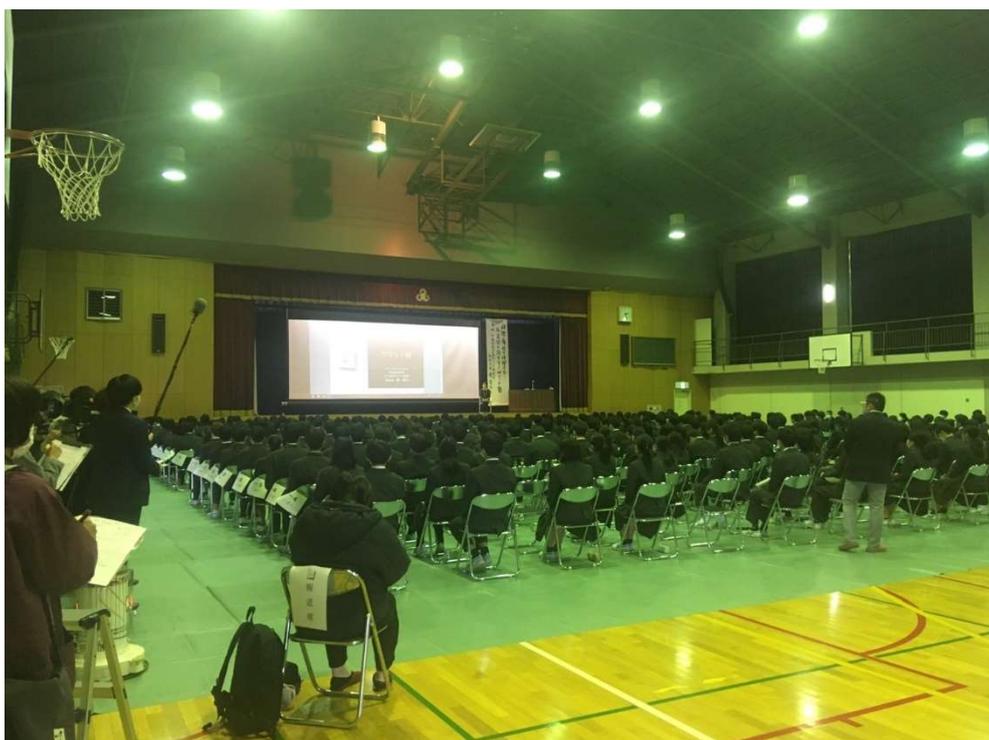
講師：外務省 大臣官房G7広島サミット事務局 総括次長 原 琴乃

形式：対面

内容：講座

参加人数：400名

当日の様子



参加者の主な感想

- ・今までは「広島で何かすごい行事が開かれる」程度の印象だったが、今日の講演を聴いてG7について様々なことを知ることができ、広島で開かれることの意義やどれだけ世界が注目しているか実感することができた。今までメディアは日本のものしか見ていなかったが、これを機に世界のメディアも見るようにし、日本との比較をしてみようと思った。
- ・外交の話は難しいことも多く全てを理解できたわけではないけれど、私たちの学生生活に生かせそうな「すばやく動けるかどうかはどれだけ準備しているかどうかだ」「交渉には信頼関係が大切」等のお話を聞いてよい経験をさせてもらった。
- ・今日のお話にあった「自分事化」という言葉が心に残った。今まで自分事として考えるというのは節水とか食品ロスをなくす等のことだけを指していると思っていた。「もったいない」「ありがとう」等も全体を通してみれば含まれると知り、もっと何か自分ができることがあるのではないかと思うようになった。自分の行動で私たちの生活は変わる！と思って過ごしていきたい。
- ・議題の作り方や外交の役割等、「総合的な探究」につながる話が多く聴けた。
- ・絵本作家と外交官としての経験について、様々な経験を通して、次の世代に失敗も成功もすべてひっくるめてわかりやすく伝える力になっているという話が印象的だった。
- ・「次世代にタイムツを渡していくのは私達（若者）だ」とおっしゃったのが心に残っている。
- ・広島は日本のどの県にも負けなくらい平和に対する意識が強い。岸田総理が挙げている広島サミットの意義に「武力侵略・核兵器による威嚇を断固拒否する」というものがあるが、広島で開催されているからこそ、その考えを統一させ世界平和を実現させてほしいと思う。しかし、それを直接私たちは実現させることはできないので、今私たちができることからしていかないといけない。その一つとして、このサミット塾で私たちが学んでいるように、学びを続け、それを私たちも次の世代に伝えていくことが必要かなと感じた。